

曇り空の下、晴れやかな笑顔が集う



2024年11月23日(土)24日(日)の2日間、茨木市役所前中央グラウンドで第48回茨木市農業祭が開催された。本イベントは、まちと里山の交流を深め、市の農林業の振興を図ることを目的としている。

当日は、地元茨木市産の新鮮な農産物や、姉妹都市である小豆島町の特設コーナー、福引き、木工体験コーナーなどが立ち並び、朝早くから多くの市民が足を運んだ。

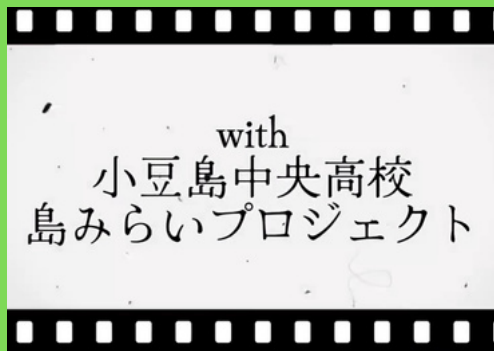
集計によると、両日で約6万人の来場者が訪れる賑わいを見せた。曇り空の下で始まったお祭りも、行き交う人々の笑顔と交流によって温かな雰囲気にも包まれ、次第に太陽も顔を覗かせた。

小豆島プロジェクト活動報告

茨木市農業祭 編

茨木市最大の農の祭

今年のプロジェクトブースは・・・？



今回もご厚意により設置いただいたプロジェクトブースでは、前回に引き続き各企画の活動内容を一枚の新聞にまとめた、「プロジェクト新聞」を展示した。

そして、今年度は新たに2つの試みを形にした。

1つ目が、しまはらさん企画で作成した映像の活用である。

10月に小豆島の高校生とともに島を巡り、学んだ小豆島の魅力をより多くの茨木市民の方々に届けることができた。

[文貴]
木尾美咲

新・パズルで姉妹都市交流！？

幅広い世代への 認知拡大

2つ目が、「いばらきフレンドリーキャンペーン農業祭」だ。

8月に両都市の子供達とプロジェクトメンバーが交流を行う企画、「いばらきフレンドリーキャンプ」の際に作成した、両都市の名所や風景をゲーム感覚で楽しく学べるパズルを使用した。

当日はプロジェクトブースを訪れた方々に両都市について楽しく知ってもらうことができ、子供達にもパズルを通して姉妹都市について理解を深めてもらうことができた。

少しの工夫が両地域の人々にとって、より近い形で姉妹都市を感じてもらえる機会となった。

姉妹都市体験

コーナー



繋がりを楽しむ、次へと受け継がれるバトン

やりがいの瞬間とお手伝い



(出店ブースのお手伝いの様子)



2022年の農業祭より、プロジェクトは小豆島町の姉妹都市ブースで出店企業のお手伝いをさせていただいている。2024年も、ありがたいことに引き続きお手伝いをさせていただくことが叶った。

これは、これまで活動が継続されてきたことや、小豆島の企業の方々と繋がりが生まれ、さらに次へと広がっていくことの証である。

私自身も今回で2年目の参加となったが、1年目と変わらず和やかな雰囲気でも迎えていただき、小豆島島民の温もりを改めて感じた。

また、この年新たに加入した7期生に対しては、2年目・3年目の参加である先輩メンバーがこれまでの繋がりを次へと繋げていくことを意識し、「繋がりを楽しむ」ことができるようサポートを行うことに注力した。



(企業の広報活動中の統括メンバー)

無事お手伝いを終えた際には、小豆島の出店企業の方々から「今年もありがとう、また来年もよろしくね」との言葉をいただいた。まさに私たちの活動に意味があること、そして関係が繋がる瞬間に立ち会えた喜びとやりがいを実感した瞬間であった。

当たり前になり立つ関係ではなく、継続の積み重ねによって生まれる繋がりであることを改めて感じた。

この先も一度きりではなく、またお手伝いをさせていただけるように活動を続けていきたい。

姉妹都市

コラボランチ企画

前回に引き続き、今回も農業祭で継続して行った活動がいくつかある。

その一つが、姉妹都市コラボランチ企画として実施した「練り天ポップ」の販売である。

茨木市の老舗企業である藤熊食品様と、小豆島の企業である小豆島ヘルシーランド様にご協力いただき、ひと口サイズの練り天を販売した。当日は寒空の下、雨にも見舞われたが、温かく食べやすい練り天は多くの来場者に好評で、幅広い世代の人々に楽しんでいただくことができた。

今後も両地域の魅力発信や姉妹都市交流に繋げることを目標に取り組みたい。



編集後記

今年度も引き続き農業祭に参加させていただき、今回で3度目の参加となった。

私自身、初めて参加した前年度とは少し違う緊張感と期待を持ちながらも、継続して参加できたことへの感謝の気持ちと、次年度以降へと繋がる活動にしたいという想いが強く残る年であった。

前年度とは異なる取り組みとして、しまはらさん企画の映像上映や、いばらきフレンドリーキャンプで使用したパズルの活用など、より市民に近い形で姉妹都市の発信や交流ができたことも大きな成果であった。

これらは、先輩方が農業祭への参加という0から1の部分を築いてくださったものを、私達後輩が2、3と肉付けを増やしていくような取り組みであり今後も大切にしたい。

農業祭は、お手伝いという立場から小豆島島民や茨木市民の方々と関わるができる貴重な機会である。

プロジェクトブースでの交流や運営補助としての活動、そしてコラボランチ企画での販売も同様である。

関係構築を図り、繋がりを楽しみながら《長く太くしていく》過程、そして姉妹都市であることを発信していくことに注力し、今後も継続して参加させていただけるよう1年1年を大切にしていきたい。